

史料館この1年を振り返って

史料館

今年度の史料館の取り組みなどのうち特筆すべきものをピックアップして紹介しよう。

ネットで史料館を詳しくリポート

阪神電車が取り組む「HANSHIN女性応援プロジェクト」が展開するインターネットの「チアフル・カフェ通信」に、史料館が取り上げられた。ライターの山本愛子さんが「村史編纂が生んだ街などの小さな民俗歴史博物館@神戸深江生活文化史料館」と題してとても詳しく史料館の成り立ちや展示の見どころ、現在の取り組みなどを紹介している。インターネットで「チアフル」「史料館」と検索すると出てくる。

このほか史料館は藤川研究員が報告したように阪神電車の高架事業の完成記念事業にも協力、古い写真を提供した。

甲南大学の博物館実習

日間受け入れた。

甲南大学の実習は、今年は文学部歴史文化学科の中村彩乃さんを五

八月十日は藤川祐作研究員が史料館の成り立ち、深山家史料寄贈の経緯、各コーナーの説明、甲南大学周辺の歴史の説明や元本庄村史編纂嘱託松田直一（直市）さん所蔵の須恵器の観察、写真撮影、正寿寺の瓦で拓本を取った。十一日は大国正美館長が史料館所蔵の文献資料の成り立ちや分類、史料目録の作成、二十五日は展示プランの作成、古文書目録の作成や解説を行った。八月二十五日には道谷卓副館長が深江史の庭の石造物約二〇基の調査を指導、九月七日には、高田祐一研究員の指導で実測データを使って、データ保存を行った。

史料館は考古学、文献史学、地域史、民俗学、情報処理の各分野に通じた専門的なスタッフがいることが強みで、その強みを生かした実習になった。二月十四日には学内で博物館実習の報告会があり、中村さんがポスター発表の形で実習内容と成果を報告した（写真右）。

図書館業務は利用者・利用冊数急増

神戸市立図書館の窓口やインターネットで予約した図書を受け取ったり返却したりするサービスも順調に伸びている。二〇一八年度は貸出延べ二二三〇人、五七一七冊、返却六〇一九冊だったが、二〇一九年度は貸出二九〇〇人、八二七三冊、返却八三五六冊と、八〇〇〇冊を突破。月平均は、一八年度は貸出一七七人、四七六冊だったが、一九年度は月平均二四一人、六八九冊に急上昇した。

新型コロナウイルスの流行のため神戸市の図書館業務は三月三日から十六日まで閉館になつたが、史料館の場合は来館者の滞在時間が短く、濃厚接触の懸念が少ないと判断し、ドアノブなどの消毒を徹底、玄関も開放したままにするなどの対策を取つて、休まず開館を続けた。学校が休校になるなど、子供の家庭での過ごし方に苦労している親や読書家からは感謝された。

神戸深江生活文化史料館

11615051 中村彩乃

神戸深江生活文化史料館とは……
1981年に設立され、漁具や生活用具、古文書などから深江の人々の生活の様子がうかがえる史料館です。
さらには、深江でくらむ者を続ける深山家の手術道具や櫻庭のカルテなどの医事資料も展示されています。

実習内容

- 1日目 甲南大学周辺の地域史拓本
- 2日目 史料館の成り立ち史料の目録記入
- 3日目 展示プランの作成
古文書の読解
- 4日目 石造物の実測
展示替え（季節の展示）
- 5日目 実測結果に基づいたデータ保存

実習の感想

史料館の方から話を聞いて深江を中心とした地域の歴史のことを学びました。
優しく教えていただき、学習員の多岐にわたる業務の一部を体験できました。
特に拓本の業務が印象に残っています。
1日1人が違う充実した5日間で貴重な経験になりました。

小学校で糸車実演

神戸海星女子学院小学校には一月二十六日に糸車を貸した。写真下。

小学校の教科書に「たぬきの糸車」（岸なみ作）がある。人間とたぬきとのほのぼのとした交流を描いた民話で、いたずら好きのたぬきが女性に助けられ、留守の間に、糸車を回して糸をつむぐというストーリー。児童からは「回る音が面白かった」「初めて見た」などの感想が寄せられた。

西宮市立郷土資料館の特別展

西宮市立郷土資料館では、七月二十日から九月一日まで、特別展示「すなどりの具～西宮の漁具～」が開催され、史料館からモンドリカゴ、ウキ、タコツボ、イカ釣り仕掛け、イカ釣り針、竹針、竹針や網補修セット、大漁旗などを御貸しました。期間中の入館者は四七八人。なお漁具の半数程度が、九月一日付で市指定重要文化財となつた。



史料館日誌抄

史料館副館長 道 谷 卓

一〇一九年四月～一〇年三月

六月28日 南五葉小学校 六年生

（見学者 四八名）

（一〇一九年）

1月10日 高羽六甲アイランド小学校 三年生

（見学者 一〇名）

1月16日 本山南小学校 三年生

（見学者 八〇名）

1月23日 鶴甲小学校 三年生

（見学者 七一名）

1月24日 福住小学校 三年生

（見学者 六一名）

1月30日 本庄小学校 三年生

（見学者 八五名）

2月4日 御影小学校 三年生

（見学者 四四名）

2月6日 瀬戸小学校 三年生

（見学者 九九名）

2月13日 宮本小学校 三年生

（見学者 五二名）

2月13日 宮本小学校 三年生

（見学者 六四名）

資料寄贈者「芳名

（敬称略）一〇一九年四月～一〇年三月

東谷陽子／藤川耕策／井上宏／岡本智子／大西令子／山田義貞

（藤川祐作記）

『生活文化史』 第48号 2020・3・31

編集／大國正美
発行／神戸深江生活文化史料館

〒658-0021 神戸市東灘区深江本町3-5-7
078-4553-4980 (FAX兼用)

<http://fukae-museum.la.coocan.jp/>

今年度は小学校の見学が大幅に減少した。教科書の内容の見直しで「昔の暮らし」のページ数が減少したことが背景にあるらしい。わざわざ校外学習までしなくても…と効率優先の判断が働いたのではと推測している。小学校で英語が始まるなど授業の密度は濃くなっている。先生の気持ちもわかる。しかしこの史料館に来れば、教科書にない多くのことが学べることも分かってほしい。実物を見たり触った感動は何物にも代えがたい。

編集後記